



vol.1 #2015

(一財)九州産業技術センター

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13-24
TEL 092-474-0042 FAX 092-472-6609
URL <http://www.k-rip.gr.jp>



K-RIP 平成27年度 総会

《Contents》

《Page》

I.	K-RIP 平成27年度総会	2~7
II.	K-RIP プロジェクト	8
III.	技術シーズ発信・環境ビジネスアライアンスマッチング事業	9~11
IV.	九州－ASEAN環境産業交流事業	12~14
V.	環境ビジネスの創出と人脈形成の場「エコ塾」	15~21
VI.	K-RIPマネージャー紹介	22
トピックス 成長戦略「3つの見える化」説明会		23
お知らせ	平成27年度 K-RIP事業計画（下期）	24

I . K – R I P 平成 27 年度総会

平成 27 年 6 月 30 日、ハイアットリージェンシー福岡におきまして、企業・自治体等 105 会員（委任状：129 会員）の出席のもと、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（以下「K-RIP」という。）平成 27 年度総会を開催しました。

鶴田会長の挨拶の後、吉田哲雄（株）ワビエム代表取締役会長を議長に選出し、平成 27 年度事業計画（案）など 5 議案について審議し、すべて異議なく承認されました。

今回の役員改選においては、副会長 1 名、理事 5 名が改選されました。

また、岸本吉生九州経済産業局長の来賓挨拶の後、記念講演では株式会社中農製作所 代表取締役会長 中農康久氏をお招きして、『人材育成の新たな視点を、知的資産経営・環境経営から考える。』という演題でご講演いただき、大変興味深いお話を伺うことができました。

- | | | |
|--------|---------|---------------------|
| (総会議案) | 第 1 号議案 | 平成 26 年度事業報告について |
| | 第 2 号議案 | 平成 26 年度収支決算報告について |
| | 第 3 号議案 | 平成 27 年度事業計画（案）について |
| | 第 4 号議案 | 平成 27 年度収支予算（案）について |
| | 第 5 号議案 | 役員の改正（案）について |



〔鶴田会長挨拶〕



〔議長を務められた吉田副会長〕



〔交流会の様子〕

■会長挨拶 鶴田 晓 氏 【環境テクノス株式会社 代表取締役会長】

只今ご紹介いただきました、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）の会長をしております鶴田でございます。本日は、お忙しい中、平成27年度K-RIP総会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。



1999年K-RIPが設立されてから、16回目の総会を迎えました。

この間、ネットワーク形成を中心として、産学官連携の促進を図り、会員のビジネス拡大や新事業創出等に寄与するなど一定の成果を上げて参りました。昨年度は国内のビジネスマッチングをきっかけとした契約成立や実証実験の開始、海外事業では会員同士による企業連合体形成やマレーシアでの企業間MOU締結等の成果が出ております。また、近年は国内のみならず、海外からの取材や視察も増えてきており、これまでの活動が着実に実を結びつつあると実感しております。これも、K-RIP会員の皆様の積極的な参加があつての結果です。

さて、現在、我が国は、少子高齢化による人口減少や新興国の台頭などにより、国内市場の伸びの鈍化が懸念されております。今後は、今まで以上に機能の差別化や競争力のあるビジネスモデルの構築、新事業創出による市場の開拓が重要であると考えております。そのためには、アジアの成長を取り込んだビジネス展開や他地域の企業・機関との広域的な連携による様々な分野で培われた技術シーズとの融合で、新たなイノベーションやビジネスモデルを創出していくことが必要であります。

そこで、本年度K-RIPでは、九州地域のポテンシャルやこれまで蓄積してきたノウハウを活かし、①「一次産業等への新分野進出」、②「ASEAN地域での環境プロジェクト組成による海外展開」、③「広域連携による全国展開への加速」を大きな3つの柱として、K-RIPから地域を牽引する企業を育成・創出し、環境産業の育成を通じて、地域活性化に繋がる取り組みを行って参ります。

また、「低炭素社会の実現」、「再生可能エネルギー・省エネルギー」分野に対する支援ニーズ等も踏まえつつ、吉田ワイビーエム会長を中心に戦略会議を開催し、K-RIP会員の保有する技術、商品、サービスを国内外問わず幅広く活用する戦略を打ち立てたいと考えています。詳細は後ほど部会長、事務局から説明がありますので、皆様のご理解を得られれば幸いです。

また、総会の後の記念講演では、「人材育成の新たな視点を、知的資産経営・環境経営から考える」のテーマで株式会社中農製作所の中農会長にご講演頂きます。新たなビジネスのヒントを探していくだければ幸いです。

最後に、K-RIP事務局のスタッフの一部に入れ替わりがあり、後ほどご紹介がありますが、この新たな体制で、会員の皆様と一緒に、今年もいろいろの事業に取り組んで行くことになりますが、引き続き、皆様方の更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げて、開会の挨拶といたします。

■来賓挨拶 岸本 吉生 氏 【九州経済産業局長】

本日は鶴田会長をはじめ、会員の皆様、多数のご出席の下、平成27年度総会が盛大に開催されましたことを、心からお慶びを申し上げます。また、皆様におかれましては、平素より経済産業省のエネルギー環境政策に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



さて、ご案内の通りK-RIPは平成11年に設立され、今年で設立15周年を迎えるが、年々その存在感を増し、今では国内最大級の環境ビジネスネットワークとなっております。K-RIPはこの間、九州の環境ブランドを築き高めるために先導的な役割を果たしてきております。これはひとえに会長をはじめとする役員の皆様、そして意欲のある会員の皆様のご努力の賜と高く評価し、今後とも大いに期待しております。

会員の皆様の中には、研究開発に関わる外部資金を獲得したり、また新しいビジネスパートナーと連携して新事業を立上げたり、更には海外展開を図るなど多くの成果を生み出していると聞いております。こうした活動を加速させるため今年度K-RIPでは、「新事業創出へのチャレンジ」、「技術融合・既存技術の高度化」、「海外展開への挑戦」を活動の三本柱として重点的に取組んでいくと伺っております。九州経済産業局としましても、「産業クラスター計画」推進のために「ものづくり・商業・サービス革新補助金」や「公害防止技術の海外展開支援事業」などの助成制度による積極的な支援をして参りたいと考えております。

ここで話が変わりますが、ご承知の通り九州管内の今夏の電力需給が大変厳しい状況でございますので、一言、節電のご協力のお願いを申し上げたいと思います。先月の16日、政府の電力需給に関する検討会で今夏の電力需給対策が決定され、九州管内では、数値目標は設けないことになっております。安定供給に必要な予備率3%は確保できる見通しでございますが、これは昨年ご協力いただきました節電効果の実績を加味し、さらに東日本からの電力需給も織り込んだ数値でございますので、仮に火力発電所でトラブル等が発生した場合には、非常に厳しい状況になることが予想されております。節電協力期間でございますが、明日7月1日から9月30日までの平日で、朝の9時から20時までになっており、昨年に引き続き節電のご協力をよろしくお願い致します。

最後になりますが、皆様方のビジネスがより一層拡大するとともに、K-RIPの活動が九州はもとより、広くアジアを取り込んだ活動へと展開し、引いては九州経済の活性化に寄与することを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

■記念講演

「人材育成の新たな視点を、知的資産経営・環境経営から考える。」

株式会社 中農製作所
代表取締役会長 中農 康久 様

(略歴)

同志社大学工学部卒業後

1971年 株式会社中農製作所に入社

1989年 全部門を経て代表取締役社長に就任

2013年 現職

知的資産経営報告書による革新的な経営を実現し、明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社(中小企業庁)等受賞



1. はじめに

ただいま紹介頂きました株式会社中農製作所 代表取締役会長の中農康久ございます。この度はK-RIPの総会行事にお招き頂きまして誠に有難うございます。また、総会が無事終了致しましたことを心よりお祝い申し上げます。

さて本日は経営資源の中で、どの時代でもトップに来る「人」について皆様にお話ししたいと思います。テーマは「人材育成の新たな視点を、知的資産経営・環境経営から考える」でございますが、当社も長い間、人が育つこそ企業が成長するという心で、ぶれなく経営を続けてございます。ただそれはそれなりに効果もあり、自信もあったわけですが、「知的資産経営」を進める中で、我々が考える人材育成というのは本質ではなかったのではないかという思いに至った訳でございます。

これを中心に今日のお話を進めて参ります。

2. 会社紹介

当社はバランスの取れた円錐形企業構造を目指しています。水平軸は柔軟性、垂直軸はこだわりでございます。具体的に申しますと水平軸は“幅広く柔軟な生産力”であり、多様なスキル、柔軟な生産システム、組織営業、豊富なネットワークがございます。垂直軸は“こだわり”であり、コア技術、自社商品、高い品質保証、人材育成、環境経営がございます。この企業構造の中に、知的資産経営が散りばめられているような会社を作っていくと考えております。

当社の経営理念は「ひとつづくり、ものづくり、企業づくり」の一流企業を目指すというものであります。これを如何に根気よく貫き通すかをお話ししたいと思います。

次に会経営方針について、“いかなる経営環境においても、成長し続ける会社にする”、実にこのフレーズを私は気に入っています。多少業績数字が悪くなっても、1年を振り返った時に成長が毎年実感、共有できる会社作りをしております。

環境方針については、地域と地球の環境保全活動に積極的に取り組み、自然と事業活動との共生を自主的に構築する企業を目指しております。

3. 知的資産経営とは

この経営が日本に上陸してから10年ですが、生まれは日本ではなく、ヨーロッパのスウェーデンで20年前に生まれました。日本に渡ってきたときには、経済産業省が日本に広めるべきだと考え、その後中小企業基盤整備機構が実際に普及させているという状況でございます。実践している私たちから、人を基軸にしている日本型経営、特に中小企業の経営に非常に最適であるという風に自信を持ってお伝えしていきたいと思います。

はじめに“知的資産”についてお話しします。企業の「・・・の力（営業力、人材力・・・）」というのは即ち強みであり、これを“知的資産”といいます。表現を変えますと、財務主義に直接現れないその会社の力のことを言います。知的財産は“知的資産”的一部分でございます。

次に“知的資産経営報告書”とはどの様なものか？自社の強みはどこから生まれてきたのか？この源泉をたどるストーリーがこの報告書であります。自社の強みが自社の歴史の中で、どういう風に培われているのか、自社の価値（顧客に対する貢献・売り）にどう繋がっているのか、それをストーリーとして見える化したものが“知的資産経営報告書”です。顧客、仕入れ先、金融機関に対しての最適なコミュニケーションツールとなり、社内に対しての最適なマネジメントツールとなります。これをパラレルに動かすことによって、実にすばらしいシナジー効果を得ることができます。

最後に“知的資産経営”について、私なりにシンプルに皆様にお伝えしたいと思います。自社の強みを総合的に、かつ効率よく経営に活かす。そして、人的資産を圧倒的に高める経営であることを私は表現致します。そして、今日お話しする“知的資産経営”的実践の中から、人材育成の本質を学ぶことができることをお伝えできればと思います。

4. わが社の知的資産経営

何度も言いますが“知的資産経営”というのは、価値の共有から始まります。この経営をわが社が導入したのは、リーマンショック真っ只中の2009年2月でした。当時の会社の思いは、「当社の価値とはいって何だろう、どこに吹き飛んでしまうのだろう、うちの責任なのか？」といった悔しい思いと、反対に、「もう一度自社の価値を見つめ直す必要がある。」という思いを持っていました。そこに帝国データバンク様から“知的資産経営”的紹介があり、すぐに飛びつきました。取り組むにあたり13名のプロジェクトチームを立ち上げ、目標を3つ掲げました。

- ①自社のブランド力・価値を見つけ、この価値をもっと伸ばそう。
- ②事業承継に活用しよう。
- ③知的資産経営の中で自社の経営計画書の検証をしよう。

事業承継について詳しいお話をしますと、プロジェクトリーダーを次の社長にし、37歳の彼に創業者がどういう日本の、戦後の経済背景で創業したのか、自らが聞いた思いを伝え、創業時の苦労、思い、自分が2代目として就任したときの中農製作所、顧客、銀行の様子を伝えました。そしてこれからこんな会社にしようと語り合いました。申し上げましたように、将来の幹部候補生である若手と、その時から理念を共有していた訳で、計画書を作ることは、実に自社を共有できる効率の良いチャンスだと思います。

5. 知的資産経営と人材育成

私たちは“知的資産経営”的中で2つ気付きがありました。

1つは「人材育成は、自社の価値の共有から始まる。」ということです。自社の経営資源から生まれる強み・そこから生まれる価値を社員と共有することが大事です。バリューチェーン図は当社の価値のストーリー性を語るもので、これを機会あるごとに社員に見せていくことが大切だと思います。知的資産とバリューチェーンをしっかりと理解するには時間がかかりますが、根気よく続けていくことが大事です。

2つ目は「経営理念の浸透は根気よく」ということです。経営理念とは、企業が何のために、誰のために経営を続けるのかの理由にあたる部分であり、同時にどのような会社を目指していくのかという考えも含まれます。これを経営理念とするならば、社員に浸透していないとおかしいものです。幹部だけが知っていても意味がありません。ここで我が社は個人面談を欠かさず行うことによって、理念の再確認を行っています。

そして、これらを通して事業承継において、自分の思いが若手に伝わり、若手の思いも加わって経営理念が熟成されていることを実感できました。

具体例を挙げますと、ベトナムでのビジネスはホーチミンが生産拠点となります。ベトナム人4名のうち2名がキーマンとして頑張ってくれました。投資リスクを極力下げるのを意識していましたが、彼らがそれに対して活き活きと活躍してくれました。当時は自社中心の先行投資ではなく、ローカルの調達企業に物を作ってもらっていましたが、ここに彼らが技術指導を行い、自社のやり方を他社に伝えて、同じベトナム同士で理解を深めることができました。

これができたのは、ベトナム人4人が入社する直前に作った“知的資産経営報告書”に基づいて、彼らに「うちはこんな会社で、将来はこんな会社にしていきたい」という思いの共有を、時間をかけて伝えた成果です。その全てを身につけた彼らを現地に送り出し、私たちは日本から継続して応援しています。

6. 環境経営と人材育成

一般的に、加工不良や債権不良等、経費がかかって売上がゼロだというのは非常に馬鹿ばかしい事だと言われています。しかしエコアクションの導入により、これは本当のことなのかと疑がってかかるようになりました。資源をいかに使い、そこにどれだけのエネルギーを使っているかが重要で、それが後々会社の材料になってくるということに気がつきました。

環境・エネルギーの観点からムダを見る力は自社は伸びていると思います。そして社員一人一人に、会社というものは社会性を決して忘れてはいけないのだということを教えていました。ものづくりというものは、当初からエネルギーをたくさん使います。環境負荷がかなりある企業なので仕方がないかとは思いますが、我々が努力して負荷を軽減することが重要だと、みんなで共有しております。

当社の事業活動と環境の負荷とをパラレルで関連づけながら、経営計画の中に「当社の環境マネジメントはこういう目標値であり、こういうことをやる。」と記しています。またそれをリアルタイムに、現場の大きな掲示板に「品質・環境」という項目を使って環境活動レポートを通して表示をしています。このことによって現状そのものに対し、年間の目標に対しどういった具合で進捗しているかを共有しています。

II. K-RIPプロジェクト

K-RIPプロジェクトは、K-RIP会員の環境・リサイクル関連分野における産業の振興や新事業の創出を目的とし、①可能性調査事業、②製品開発事業、③既存製品改良事業、④その他事業、における調査および研究に係る助成を行うもので、平成27年度は4件のプロジェクトが採択されました。

採択企業は、平成27年7月1日から平成28年2月末まで申請内容に基づきプロジェクトを実施していきます。

	企業名	プロジェクト名
1	(株)環境緑化保全 コンサルタント	モンゴル版くりんかロード事業化調査事業
2	(株)エコプラン	子水神（正多角形状配置別）の水質改善効果の最適化実証実験
3	(株)J S V	SOCメーターでフォークリフト鉛蓄電池100%再生器再生時間短縮化とSOCメーター商品化
4	(株)ユニティクス	弊社特許技術を使った遠隔監視システムのCEMS/HEMS市場への展開

【K-RIPプロジェクト協議会（審査会）の開催】

4月中旬から約1ヶ月間、公募を行い、エントリーされた企業を対象にK-RIPプロジェクト協議会で審査会を実施しました。

- ①メンバー：ビジネス創出部会及びK-RIP事務局
- ②開催日時：平成27年6月3日（水）13:00～16:15
- ③会場：(一財)九州産業技術センター 3階会議室



各社プレゼンテーション



審査会

III.技術シーズ発信・環境ビジネス アライアンスマッチング事業

環境関連企業の新分野進出を支援するため、自治体、支援機関等と連携し、九州内外の大型環境見本市等の機会を活用した技術シーズの発信・個別商談会を開催し、ビジネスパートナーや新規ユーザーの発掘を目的にマッチング事業を実施します。平成27年度は、エコテクノ2015（北九州市）、びわ湖環境ビジネスメッセ2015（滋賀県長浜市）において出展・技術シーズ発信・アライアンスマッチングの支援を行う予定です。

1. エコテクノ2015

【期間】2015年10月7日（水）～9日（金）

【場所】西日本総合展示場 新館（北九州市小倉北区浅野3丁目8-1）

①出展支援

企業名	出展物	新分野展開
日本乾溜工業(株)	竹という再生可能なバイオマス資源を使用した防草舗装土製品「雑草アタックS」	従来事業の建設、防災分野⇒環境（リサイクル）
株ミヅタ	加圧熱水処理技術を応用した化粧品	環境⇒コスメ分野展開
楽しい(株)	食品廃棄物地域循環圈形成サービス事業の展開	環境（リサイクル）×農業分野への適用拡大

②技術シーズ発信会（10月8日AM：クリーン技術新分野進出セミナー）

テーマ	発表者
(環境×建設・防災) バイオマス資源活用の土系舗装材のご提案～建設・防砂事業から環境分野への挑戦	日本乾溜工業(株) 営業統括部 営業推進グループ 部長代理 浜嶋 博昭 氏
(環境×農業) 食品廃棄物地域循環圈形成サービス ～循環型社会が農業を強くする～	楽しい(株) 代表取締役 松尾 康志 氏
(環境×コスメティック) 加圧熱水処理方法とそのシステムによる「植物系バイオマスからの有用物質抽出及び商品化」について	株ミヅタ 環境技術研究所 執行役員所長 土井 研一 氏
(建設×エネルギー) 「自然と共生できる社会の創造 ～建設業から環境事業への展開」	篠田(株) 環境事業部福岡事務所 所長 仁位 正博 氏 ディン トウイ リン 氏
(レンタルサービス×エネルギー) 「再生可能エネルギー100%を利用したコミュニティサイクルシェアリング事業について」	川重商事(株) 事業開発推進本部 環境・エネルギー部1課 課長 岡村 圭介 氏

■技術シーズ発信・環境ビジネスアライアンスマッチング事業

③アライアンスマッチング（10月8日PM）

九州域内企業と環境分野でアライアンスマッチングを希望する全国各地の企業が、自社事業（商品・技術・システム等）のプレゼンテーションを行い、隣接する会場にて小規模展示と商談会を実施します。

時間	企業名	地域	製品：サービス等	希望パートナー
13:40～ 14:00	株近江物産 (滋賀)	近畿	<u>プラスチックリサイクル業</u> 使用済みプラスチックからバージン材同等のプラスチック成形材料のリサイクル技術を活かしてユーザーのニーズに対応	・廃プラスチック排出事業者 ・プラスチック成形事業者 ・産廃処理業者 ・プラスチックリサイクル事業者
14:05～ 14:25	東洋スクリーン 工業株 (奈良)	近畿	<u>ウェッジワイヤースクリーン(ファインウェッジ)及び応用機器製造</u> 販売世界トップクラスのスリット5μmレベルのウェッジワイヤースクリーン製造技術を有する	・販売代理店希望者 ・ファインウェッジの共同用途開発 ・商品開発希望者
14:30～ 14:50	株BAC 沖縄営業所 (沖縄)	沖縄	<u>住宅用アルミサッシ、ガラス工事</u> 窓のリフォーム工事で外壁を壊さずサッシの隙間にカレタ充填ができるオジナル工法「発泡工法」を有する	・サッシ施工販売会社 ・マンション・建物管理会社
14:55～ 15:15	株グランテック (富山)	中部	<u>土木工事、地盤改良工事、太陽光発電基礎工事等</u> 低環境負荷・低コストの地盤改良工法「スクリュー・プレス工法」を有する	・地盤改良業 ・土木工事業 ・地質調査業 ・その他建設事業者
<特別プレゼン>				
15:20～ 15:40	関東経済産業局 資源エネルギー環境部 環境・リサイクル課		(仮) 関東地域におけるビジネス支援の取り組み	

2. びわ湖環境ビジネスメッセ 2015

【期 間】2015年10月21日（水）～23日（金）

【場 所】滋賀県立長浜ドーム（滋賀県長浜市田村町1320）

①出展支援

企業名	出展物	新分野展開
株ジェー・フィルズ	これまでの方式では処理できなかった高濃度排水を酵素の力により低負荷処理可能にする装置システムの紹介	環境×農業分野・水産業分野等への展開
エネフォレスト株	農業用水を活用した水力発電のフランシス水車のランナの5軸加工と水車組立システム構築のご紹介	環境×農業分野・水産業分野等への展開
ハウステンボス・技術センター株	30%の空調節電可能、国際認証を受けた新自然冷媒ガス「HCR188C2～R443A」のご紹介	環境×観光（ハウステンボス内での実証→外販）
株ワイビーエム	業界最高レベルのウルトラファインバブル発生	環境×農業分野・水産業分野等への展開

②ファインバブルセミナー（10月22日PM）

テーマ：「ファインバブル技術最前線と応用例」

概要：環境負荷を低減する水質浄化や工業分野での高機能洗浄はもちろんのこと、農業分野での植物成長促進、機能性農作物・食品等の創生など、広範囲な産業応用、今後の市場拡大が期待されているファインバブル及びウルトラファインバブル技術の最新動向と応用事例を紹介する。

基調講演：寺坂 宏一 氏（慶應義塾大学 理工学部応用化学科 教授（F B I A理事）

企業プレゼン：株ワイビーエム（F B I A正会員）

株多自然テクノワークス（F B I A理事）

③技術シーズ発信会（10月23日）

テーマ	発表者
小水力発電による地域活性化と地産地消モデル	エネフォレスト株 代表取締役 木原 優文 氏
高濃度有機排水の処理を可能にした酵素活性化法CMシステム	株ジェー・フィルズ 代表取締役 谷 一身 氏
ハウステンボスで省エネ ～次世代ノンフロンガスでエアコン30%節電～	ハウステンボス・ 技術センター株 取締役 営業企画室長 鶴田 修一 氏

IV. 九州－ASEAN 環境産業交流事業

ASEAN地域への関心が高まるなか、K-RIPは昨年度、環境産業交流事業（ミッション団の相互派遣など）の成果として、マラッカ・グリーンテクノロジー・コーポレーションとマラッカ州における環境プロジェクト組成にかかるLOI（基本合意書）の締結を行い、かつ水プロジェクト、エネルギープロジェクトにかかる企業間LOIの締結を支援しました。今年度は、マレーシア・マラッカ州で進める環境プロジェクトの具体化を目指すとともに、企業からのニーズが高いベトナムでの事業展開支援や環境プロジェクト組成も視野に入れ、現地調査・官民協議等を行います。

また、九州企業のマレーシア・ベトナム進出（現地企業とのビジネスマッチングなど）を視野に入れた、具体的な案件組成へ向けた協議を行うASEAN環境プロジェクト戦略研究会の開催やマレーシア及びベトナムミッション団の派遣を計画しています。

1. 第1回 ASEAN環境プロジェクト戦略研究会

【開催日時】 平成27年4月7日（火） 13：30～17：00

【開催場所】 （一財）九州産業技術センター 3F会議室

【プログラム】

(第一部テーマ) マレーシア・水処理プロジェクト (13:30～15:00)

- (1) 冒頭説明 (九州経済産業局 環境対策課)
- (2) 現状説明 (協和機電工業(株))
- (3) フリーセッション

(第二部テーマ) ベトナム環境プロジェクト (15:30～17:00)

- (1) ベトナム事前調査報告及び案件参入に向けたアプローチ (九州経済産業局 環境対策課／K-RIP)
- (2) フリーセッション
- (3) 閉会挨拶 (九州経済産業局 環境対策課長 竹内様)

2. 第2回 ASEAN環境プロジェクト戦略研究会

【開催日時】 平成27年9月1日（火） 16：00～17：30

【開催場所】 （一社）九州産業技術センター 3F会議室

【プログラム】

- (1) 冒頭説明 (九州経済産業局 環境対策課)
- (2) 現状説明 (K-RIP)
 - ・ベトナムにおける環境プロジェクト組成の取組について
 - ・ベトナム現地調査ミッションの派遣について
- (3) フリーセッション
 - ・環境プロジェクトの提案内容とアプローチ方法について
 - ・ベトナム調査ミッションのスケジュール等の確認

3. ASEAN環境プロジェクト組成のための現地調査、官民協議の実施報告

7月5日～10日の間でマレーシア及びベトナムを訪問し、マレーシアでは関係機関との間で、今年度の環境産業交流に関する協議及び現在取り組んでいる環境プロジェクト（水プロジェクト、廃棄物プロジェクト）の具体化に向けた協議を行い、ベトナムでは今後の環境プロジェクト組成に向けた現地政府機関とのネットワーク構築や環境分野におけるニーズ調査を行いました。

＜現地調査スケジュール＞

日 程		スケジュール	滞在地域名
7月5日 (日)	移動	福岡国際空港 発 ※ホーチミン経由	クアラルンプール
	18:00	クアラルンプール空港 着	
夜		・マレーシア廃棄物管理協会(WMAM)と事前打合せ ・Waste-PJ組成に係るパートナー候補との打合せ	クアラルンプール
7月6日 (月)	移動	クアラルンプール→マラッカ州	マラッカ州
	AM	マレーシア・マラッカ州政府関係機関との協議	
	PM	「JOINT COMMITTEE」との協議 (Water-PJ、Waste-PJ) ・MGTC、MiGHT、WMAM 他	
7月7日 (火)	AM	・マラッカ水道公社(SAMB)との協議(Water-PJ)	マラッカ州
	PM	・マラッカ市役所訪問(Waste-PJ) ・現地パートナー企業とのMOU締結(Waste-PJ)	
	移動	マラッカ州→KLIA→ホーチミン	ホーチミン
7月8日 (水)	AM	・グリナリーパーク(Greenery Parks)訪問	ホーチミン
	移動	ホーチミン→ハノイ	ハノイ
7月9日 (木)	AM	・資源環境省環境局との協議	ハノイ
	PM	・農業農村開発省科学技術環境局との協議	
7月10日 (金)	AM	・アセットマネジメントアドバイザー(AMA)との協議	ハノイ
	PM	・ウディック(UDIC PRO)との協議	
7月11日 (土)	移動	ハノイ→福岡	

【マレーシア・マラッカ州（5日～7日）】

5日に関係機関と水プロジェクトの具体化及び廃棄物プロジェクトの企業間パートナーシップ形成についての事前打合せ後、6日に今後の交流についての協議と水・廃棄物各プロジェクトについての議論を行いました。翌7日には各プロジェクトの関係機関を訪問し、具体的な事業に関するプレゼンテーションを行い、同日夕方に廃棄物プロジェクトに関する企業間MOUを(株)環境緑化保全コンサルタントとメンスリングループとの間で締結し、当該プロジェクト具体化に向けた協力をを行うことで合意形成がなされました。



マラッカ州政府関係者との協議



水プロジェクトに関する協議



廃棄物プロジェクトに関する
企業間MOU締結式

■九州－ASEAN環境産業交流事業

【ホーチミン・ハノイ（8日～10日）】

ホーチミン・ハノイの政府関係機関及び企業を訪問しネットワークを構築するとともに、現地の環境課題等のヒアリングを行い、これに対する具体的な技術提案を行いました。

(8日) グリナリーパーク（@ホーチミン）

ホーチミン市人民委員会傘下のベトナム最大級の農業系国営企業であるグリナリーパークを訪問しました。

16の子会社と2000名の従業員を擁し、100haの公園整備や蘭の生産等を行っている企業で、公園整備・農業関連技術全般、さらに有機肥料の製造や、ベトナム全土で課題となっている塩害対策等について強い関心が示されました。



同社ホア社長（左5）

(9日) 資源環境省環境局、農業農村開発省科学技術環境局（@ハノイ）

九州経済産業局及びK－R I Pより、九州の環境産業等について紹介し、ベトナムとの今後の協力関係の構築や環境プロジェクトの共同組成について提案しました。



資源環境省環境局との協議

これを受けて資源環境省環境局からは、環境に関する法整備を進めているが、現実との乖離が大きくなってしまっており、特に、産業排水や廃棄物リサイクルが大きな問題で、「ぜひ、九州企業とタッグを組んで取り組んでいきたい」との発言がありました。



農業農村開発省
科学技術環境局との協議

農業農村開発省科学技術環境局からは、南北に長いベトナムでは、農作物の物流が大きな課題であり、3日かかる南北間の輸送の間にかかるロスを低減させる鮮度保持技術が重要になる、との見解が示されました。また、農作物の生産効率化技術等全般に対しても高い関心が必要に応じて、果実等の生産量が高い地域の紹介も可能である旨の発言もありました。



AMA フエン社長（右5）

(10日) アセットマネジメントドバイザー（AMA）、ウディックプロ（@ハノイ）

米国から資金を調達して、病院、道路、リゾート等に投資するアセットマネジメントドバイザーでは、ベトナム北部の省で2300haのエコフレンドリーなリゾートテーマパーク開発計画を進めており、この計画に活用できる環境技術や軟弱地盤対策に高い関心が示されました。また、先行事例として日本のテーマパーク等の視察についても、その意向があるとの発言もありました。



ウディックプロ トラン副社長（左5）

ハノイ最大手の建設グループ企業の設計会社であるウディックプロでは、前述テーマパークの開発にも関与しているほか、軟弱地盤対策、省エネ機器・技術に関して高い関心があるとの発言がありました。

今後のマレーシア・ベトナムとの交流計画について

マレーシア・マラッカ州においては、現在取り組んでいる各プロジェクトの具体化に向けた協議を続けるほか、他の地域における環境ビジネスのニーズも引き続き調査をしていきます。ベトナムにおいては現地の環境課題に対応する九州企業との連携により、現地における環境プロジェクトの組成に取り組んでいきます。

これらに対応すべく、マレーシアでは11月、ベトナムでは来年2月に九州の関係機関・企業からなるミッション団派遣を計画しています。

V. 環境ビジネスの創出と人脈形成の場 「エコ塾」

—毎月第2木曜日開催—

K-RIPでは九州経済産業局と連携して、環境分野の人的交流、企業間交流の活性化を目的とする「エコ塾」を毎月1回開催しております。平成19年度に第1回を開催し、この度90回という節目を迎えることが出来ました。

「エコ塾」は、環境関連ビジネスに取り組む企業や環境ビジネスを支援する団体等のプレゼンテーション（毎回2社程度の講演）と講演会後に行います参加自由型の交流会（立食形式）の2部形式となっております。

また、昨年度から新たな取り組みとして、交流会内で企業や支援機関からの告知や各種PRを行うことが出来るショートプレゼンテーション（1分間）の時間を設けています。気軽に企業PRが出来る事もあり、参加者との積極的な交流を図っていただいている。今回は第87回～第91回までの概要を報告します。

1. 第87回エコ塾～IT×環境～

【開催日時】平成27年5月14日（木）17：00～

【参加人数】講演会56名／交流会36名

【プレゼンテーション】

[テーマ] 「環境分野においてIoTを現実に活用するヒント」

[発表者] 日本システムウェア株式会社

ITソリューション事業本部 ビジネス創出部会イノベーション事業部

事業部長 竹村 大助 氏

[概要] モノのインターネットと言われるIoTは、新たな事業創出につながる可能性として期待され、ますます注目を浴びています。近い将来九州でも、環境分野においてIoTの技術を活用した取組みが生まれる事が予想されます。企業や自治体でも様々なセンサーやスマートフォン等のデバイスから収集される膨大な情報から将来の事業拡大やプロセス改善へのヒントを検討されている事と思います。

本プレゼンでは、環境分野にてIoTの技術を使って具体的な取り組みをスタートした海外、国内の事例をご紹介します。また併せて独立系のシステムインテグレータの立場から、IoT環境を実現できるプラットフォームとして多くのお客様からご関心を頂いている『Toami（トアミ）』をご紹介します。

[テーマ] 「ITでeco！」

[発表者] 株式会社ソルネット 環境ソリューション推進室

ITコーディネータ 西野 幸 氏

[概要] 創業以来48年間、環境未来都市北九州で、さまざまなお客様に情報ソリューションをご提供してきた私たちは、「ITってエコなんだ！」ということに気づき、環境ソリューション推進室を設置しました。そのルーツとなった産業廃棄物処理企業のお客さま事例を交えながら、私たちの考える「ITでeco！」についてお話しします。

また循環型社会の実現に貢献できる製造業様向けパッケージや、ウェアラブルデバイスを活用した健康ソリューションについてもご紹介します。

■環境ビジネスの創出と人脈形成の場「エコ塾」

[テーマ] 施策紹介「攻めの I T 経営」

[発表者] 九州経済産業局 地域経済部 情報政策課

[テーマ] K-RIP の活動紹介

[発表者] K-RIP 統括マネージャー 嶋田 駿一



日本システムウェア㈱ 竹村 氏



(株)ソルネット 西野 氏



講演会風景



K-RIP マネージャー

【ショートプレゼンテーション】

[発表者] AGC 硝子建材株式会社 中山 雄介 氏

[発表者] 篠田株式会社 福岡事務所 ディントウイリン 氏

2. 第88回エコ塾～発見！水から生まれるニュービジネス～

【開催日時】平成27年6月12日（金）17:00～

【参加人数】講演会56名／交流会36名

【プレゼンテーション】

[テーマ]「水とプラズマ」

[発表者] NSS九州株式会社 代表取締役 伊藤 幸治 氏

[概要] 現在、世界中を往来している貨物船の貨物調整用バラスト水の排水が、その海域固有の生態系の破壊や海洋環境の汚染が環境問題になっており、水産業や経済活動にも多大な影響を与えています。IMO(国際海事機関)より2016年までにバラスト水処理装置の搭載完全義務化が求められており、新しい技術開発が必要です。

弊社は一例として、大手船舶会社に対して低温プラズマを利用した電極部(水中)からの照射を実現させ、海洋での生態系の破壊が懸念される約4500種もの微生物を、ラジカルOH等で死滅させる技術を開発しました。今後は環境負荷が少ない(副生成物の発生を測定)処理装置の研究開発を進め、設計では心臓部の高電圧制御で安全にCPU・FPG組み込み効率化を図り、製造販売の事業化を目指しております。

[テーマ]「環境負荷ゼロの水バイナリー発電システム」

[発表者] 株式会社アーカイブワークス 代表取締役 松尾 栄人 氏

[概要] 現状の低温熱源利用の再生エネルギー発電システムについて、①環境への影響、②発電出力と効率、③適用性とコストの3点を主体に、作動媒体、熱サイクル、機能等の比較を通して行い、最適システムの選定について概要をご紹介します。また、水のみを使う環境負荷ゼロの水バイナリーサイクルの原理・機能・性能の優位性について、発電機の各構成要素の働き、自然環境への対策を含むサイクル計算結果に基づいてご説明します。

最後に、60～85℃の温水を使った水バイナリーサイクルの開発・実用化計画についてご紹介します

[テーマ]「加圧热水処理方法とそのシステムによる「植物系バイオマスからの有用物質抽出及び商品化」」

[発表者] 株式会社ミゾタ 環境技術研究所 執行役員所長 土井 研一 氏

[概要] ~高圧の热水を使って、植物から機能性物質を効率的に抽出する「加圧热水処理技術」とこの技術を応用した新分野展開及びその商品化（化粧品）について紹介します～

加圧热水処理との出会いは16年前で、産総研、佐賀大学、佐賀県工業技術センターなどと佐賀県で多く発生する農業廃棄物（稲わら、麦わら）の有効活用というテーマで県より3年間で60,000千円の委託費を頂き研究が始まりました。ミゾタは装置の開発を担当し、目標はバイオエタノールでした。そして3年後、研究の方向性は見えたものの、継続には莫大な費用が必要で断念。しかし、残渣として処理していたリグニン部などに機能性食品が多く存在することに注目しその後はミゾタ・佐賀大学の2者で研究を継続しました。装置を産総研からミゾタへ移管し生産設備へと展開し現在に至ります。

【特別プレゼン】

[テーマ]「安全・安心な水に向けてのサポートのご紹介」

[発表者] 一般財団法人化学物質評価研究機構 久留米事業所副所長 屋形 直明 氏

[概要] 私たちは化学物質から多くの恩恵を受けている一方でそれらを安全に管理する必要があります。本発表では、バラスト水や工場排水を一例に本機構の「安全・安心な水」に向けてのサポート業務をご紹介します。

■環境ビジネスの創出と人脈形成の場「エコ塾」



N S S 九州(株) 伊藤 氏



(株)アカイブワークス 松尾 氏



講演会風景



(株)ミズタ 土井 氏



(一財) 化学物質評価研究機構 尾形 氏

【ショートプレゼンテーション】

[発表者] 株式会社日本微生物 城島 邦彦 氏

[発表者] 株式会社ジェー・フィールズ 青木 正成 氏



(株)日本微生物 城島 氏



(株)ジェー・フィールズ 青木 氏

3. 三木会 with 第89回エコ塾 ~九州工業大学 技術交流会~

【開催日時】平成27年7月16日(木) 17:00~

【参加人数】講演会73名／交流会44名

【講 演】

〔テーマ〕「環境技術の実験場～ハウステンボス～」

〔講演者〕ハウステンボス・技術センター株式会社 取締役 営業企画室長 鶴田 修一 氏

〔概 要〕当社は、ハウステンボスをテーマパークでなく街と見立てて国内外の環境技術の実験場としての活用を推奨しています。導入技術の実証が終了したものは、製造元との協議によりハウステンボスブランドで外販をしています。

K-RIP会員企業の技術導入をきっかけに事業化を開始した事例や、世界を「進化させる」と感じられる最新の技術情報をご紹介します

【K-RIP活動紹介】

〔発表者〕K-RIP マネージャー 杉迫 寿隆



講演会風景



(挨拶) K-RIP鶴田会長



交流会風景



ハウステンボス・技術センター㈱
鶴田 氏

【企業紹介】

〔発表者〕株式会社ジー・フィールズ 青木 正成 氏

〔発表者〕株式会社ティオシステムズ 顧問 小森 淳一 氏



(株)ジー・フィールズ 青木 氏



(株)ティオシステムズ 小森 氏

■環境ビジネスの創出と人脈形成の場「エコ塾」

4. 第90回エコ塾 災害：防災～あなたを守る、エコな技術～

【開催日時】平成27年8月6日（木）17:00～

【参加人数】講演会44名／交流会21名

【講 演】

[テーマ] 「突然の水害からあなたを守る、FRP材を用いた無動力、

全自動の浮体式防水扉『寝ずの番』」

[講演者] 日本エフ・アール・ピー株式会社 取締役常務執行役 統括部長 那須 雅義 氏

[概 要] 近年多発する台風や局地的な集中豪雨は、河川の氾濫や道路の冠水を引き起こし、都市機能を麻痺させるだけではなく、地域住民の生命や財産が失われることは珍しくありません。そこで当社は、FRP製品の製造技術を活かした雨水などの水の浮力で扉が起立し、水が引けば自動的に元の床面に格納される無動力の防水扉を開発しました。今回は、製品の構造と作動原理や安心・安全の4大特長、施工事例などエコと防災を兼ね備えた取り組みについてご紹介いたします。

[テーマ] 「災害の教訓と今後の備え」非常時に役立つ防災製品のご紹介」

[講演者] 篠田株式会社 環境事業部 福岡事務所 所長 仁位 正博 氏

[概 要] 近年、防災対策基盤整備として「情報収集・伝達手段の整備」、「拠点施設の整備、建築物の耐震化」、「災害に強い街づくり」が推進されていますが、当社がご紹介する製品は被災された方々の声を基に「その時、何が必要だったのか」を考えた、災害の教訓に応える身近な防災製品です。

〔特別プレゼン〕

[テーマ] 「エコワンウォッシュ」（空調・冷蔵冷凍の室外機洗浄）の

省エネ・設備長寿命に関する有効性について」

[講演者] 株式会社エコプラスワン 代表取締役 林 俊祐 氏

[概 要] 一般ではあまり知られてない「空調・冷蔵冷凍設備の室外機の洗浄」とその効果について説明します。室外機洗浄が省エネと設備長寿命化につながる仕組みについて、室外機洗浄実績や「室内機洗浄」との違いなどの情報を解りやすく説明します。是非、情報を持ち帰って頂き、省エネ、コストダウン実現のために自社の設備を洗浄してみませんか？「エコワンウォッシュ」は弊社の登録商標であり、北九州市認定の「エコプレミアム商品」です。



講演会風景



交流会風景



篠田㈱ 仁位 氏



日本エフ・アール・ピー㈱
那須 氏



(株)エコプラスワン 林 氏

5. 第91回エコ塾 「環境ビジネスセミナー&拡大版エコ塾 in おおいた」

第91回エコ塾は特別企画として大分県が主催する環境ビジネスセミナーと合同で「廃棄物利用・削減」をテーマに「拡大版エコ塾 in おおいた」として開催しました。

【開催日時】平成27年9月17日(木) 14:00~

【開催場所】ホルトホール大分(大分市金池南1-5-1)

【主 催】大分県、九州経済産業局(一財)九州産業技術センター、K-RIP

【実施機関】NPO法人 技術サポートネットワーク大分

【参加人数】講演会77名/交流会56名

【内 容】

～講演～

[テーマ] 「ビジネスチャンスを特許から探す」

[講演者] 松本特許知財事務所 松本 秀治 氏



松本特許知財事務所 松本 氏

～企業プレゼンテーション～

[テーマ] 「エコウッドの生産技術と環境事業」

[発表者] 株式会社 エコウッド 代表取締役社長 石本 康治 氏

[概 要] 「木材・プラスチック再生複合材」は原材料としてリサイクル素材を使うだけでなく、使用後は回収して繰返し原料として再生可能な「多回リサイクル性」をもつことで環境配慮型素材として認知されてきました。

当社では創業以来「限りある資源の再生」をテーマに、木材とプラスチックを化学しながら「不均質な廃材から均質・高品質な製品づくり」を進めてまいりました。

本講演では現在、デッキ・ルーバー・ベンチ等の外装用建材として幅広くご利用頂いております当社製品「エコMウッド」の生産技術と環境事業についてご紹介します。

[テーマ] 「造園業が目指す環境型環境経営」

[発表者] 木下緑化建設株式会社 代表取締役社長 木下 浩市 氏

[概 要] 木下緑化がビジネスモデルとして掲げている循環型経営「緑のライフサイクル」について説明します。循環型経営を実践することのメリット、その中でもリサイクルや生物多様性に取り組むことが従来から取り組んでいた造園工事やメンテナンスの受注活動においても大きく貢献していることを説明します。

[テーマ] 「泥土改良処理ディサット工法 及び重金属処理技術について」

[発表者] 株式会社 ワールド・リンク 代表取締役 藤 龍一 氏

[概 要] 今年5月に国土交通省新技術登録(区分:材料)されました、泥土改良技術ディサット工法Rをご紹介いたします。建設現場及び土木工事現場の建設発生土及び建設汚泥、港湾並びに湖沼、河川工事で発生する浚渫土の改良技術です。

次にこの工法と併用して行うことができる、焼却灰、汚染土、汚染排水の重金属処理技術をご紹介します。硫化物処理と共に沈処理を併用した、特許3件を出願中(2件公開中)の技術です。既に中間処理場で実施されています。



株エコウッド 石本 氏



木下緑化建設㈱ 木下 氏



ワールド・リンク㈱ 藤 氏

VI. K-RIPマネージャー紹介

K-RIPの各事業を効果的・効率的に進めるため、統括マネージャー1名マネージャー1名を配置し、会員企業様のお役立ちになればと活動しています。

ご要望等がありましたらお気軽にご相談ください。



統括マネージャー

しまだ しゅんいち
嶋田 駿一 (出身 福岡県)

□経歴：西南学院大学大学院文学研究科国際文化専攻博士後期課程修了

中日ビジネスサポート(株) (アジアビジネスコンサルティング)

□趣味：旅行、お酒

□一言： K-RIPのマネージャーとして、皆様のサポートをさせて頂く中で、環境分野において人と人との出会いから新たなビジネス、新たな市場が生まれることを実感しています。

ネットワーク組織ならではの強みを活かし、九州から全国、そしてアジアへ、皆様のビジネス拡大の支援に務めます。



マネージャー

すぎさき すみたか
杉迫 寿隆 (出身 福岡県)

□経歴：福岡大学経済学部経済学科卒業

個人にてウェブサイト制作業

□趣味：野球観戦、お酒

□一言： 初めまして。今年度マネージャーを努めさせていただくことになりました杉迫と申します。若輩ではございますが「九州発の環境ビジネスを世界へ」を合言葉に、熱い思いを持たれている皆様のお役に立てるよう、コミュニケーションを大事にして、明るく前向きに努めます。ぜひお気軽にお声かけください。

～トピックス～

経済産業省「成長戦略「3つの見える化」説明会」において、K-RIPの取組を紹介しました。

平成27年6月30日、「日本再興戦略」改訂2015が閣議決定されたことを受け、経済産業省において、意欲ある中小・中堅企業の「稼ぐ力」の強化に向けた挑戦を後押しするため、成長戦略を「見える化」する取り組みが実施されています。

<経済産業省HP：http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/mieruka/index.html>

◆日時：平成27年9月9日（水） 15：00～16：30

◆会場：ホテルニューオータニ博多 3階 「芙蓉・華の間」

<プログラム>

1. 開会挨拶 高木経済産業副大臣

2. プレゼンテーション

成長戦略「3つの見える化」～中小・中堅企業 あなたが主役～

経済産業省 地域経済産業審議官 井内 摂男 氏

3. パネルディスカッション

「中小・中堅企業のサクセストーリー、成長の支援」

◆パネリスト

－ 協和機電工業株式会社（ものづくり）

代表取締役社長 坂井 秀之 氏

－ 有限会社 True Balance（サービス）

代表取締役 山下 積徳 氏

－ 九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（支援機関）

プロジェクトマネージャー 嶋田 駿一 氏

－ 沖縄県よろず支援拠点（支援機関）

コーディネーター 上地 哲 氏

－ 福岡女子大学（有識者） 教授 塩次 喜代明 氏

◆モデレーター

－ 九州経済産業局長 岸本 吉生 氏



経済産業副大臣の挨拶



パネルディスカッション

お知らせ 平成27年度事業計画（下期）

平成27年度下期は、以下の事業（イベント）を開催します。

日時	事業名	場所	連携団体
平成27年10月7日 ～9日	エコテクノ2015出展支援 ～地球環境ソリューション展～		
平成27年10月8日	環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー in 九州 (エコテクノ2015内で開催)	北九州市	環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー運営協議会
	クリーン技術新分野進出セミナー (エコテクノ2015内で開催)		S ONE Q
平成27年10月21日 ～23日	びわ湖環境ビジネスメッセ2015 出展支援・技術シーズ発信会 (個別マッチング支援)	滋賀県	
	ファインバブルセミナー (びわ湖環境ビジネスメッセ内で開催)		(一社) フайнバブル産業界
平成27年10月下旬 (予定)	【ASEANとの環境産業交流事業】 (マレーシア環境PJミッション)		
平成27年11月11日	第92回エコ塾	福岡市	
平成27年12月1日	環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー in 沖縄	那覇市	環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー運営協議会
平成27年12月9日	環境ビジネス交流会	福岡市	九州経済連合会
平成27年12月16日	エコ塾 with FVM	福岡市	フクオカベンチャーマーケット
平成28年1月中旬 (予定)	エコ塾 with S ONE Q	福岡市	S ONE Q
平成28年1月下旬 (予定)	環境イノベーションフォーラム	長崎県 対馬市	九州経済連合会 EPO九州 他
平成28年2月4日	環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー in 大阪	大阪市	環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー運営協議会
平成28年2月21日 ～26日(予定)	【ASEANとの環境産業交流事業】 (ベトナム環境PJミッション)		九州経済国際化推進機構

※参加等ご希望の方は、K-RIP事務局までご連絡下さい。

[Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza] (K-RIP)

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 事務局

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東2丁目13-24
(一財)九州産業技術センター内

TEL 092-474-0042

FAX 092-472-6609

URL <http://www.k-rip.gr.jp/>
e-mail info@k-rip.gr.jp

